ポスターNo.B2　　**実践発表**

夜間中学における「他己紹介」を取り入れた日本語学習
―インタビュー・作文・発表を通した四技能統合の実践―

髙田茂子（千葉市立真砂中学校かがやき分校）

１．実践の背景と目的

夜間中学は、義務教育を十分に受ける機会を得られなかった人に学びの機会を保障する場である。Innovation Design & Technologies, Inc.（2026）は、日本語指導を必要とする生徒の多さと指導体制の課題を報告している。

実践校では、普段の学校生活に加え、取り出しによる日本語の授業においても、他者への声かけや発話をためらったり、母語が通じる仲間とだけ話そうとしたりする実態があった。そのため、母語の異なる相手とも、支援のもとで日本語を用いてやり取りする機会を設ける必要があった。

そこで、相手に質問し、聞き取った内容を作文・発表で伝える「他己紹介」を取り入れた。四技能を関連づけ、日本語でのやり取りを通して相手を知り、その内容を他者に伝えることを目的とした。

２．対象と実践方法

2024 年度から 2026 年度まで、毎年 6 月にトピック学習として実施した。対象は各年度の 4 月に入学し、日本語の取り出し授業を受けている生徒で、2024 年度は 6 人（2 カ国）、2025 年度は 7 人（4 カ国）、2026 年度は 6 人（5 カ国）であった。2024 年度に生徒が意欲的に取り組む姿が見られたため、翌年度以降も「他己紹介」の実践を継続した。

2024 年度は、異なる背景をもつ相手との交流を意図し、教員や先輩へのインタビューを取り入れた。2025・2026 年度は、出身国の多様化を踏まえ、生徒同士のインタビューに変更した。

３．実践の内容

教材は『中学生のにほんご 学校生活編』第 9 課を活用した。普段の授業は習熟度別の 2 グループで行っているが、本実践においては、担当教員間で事前に計画を共有し、合同授業としてインタビューのペアを編成した。練習として、ペアの相手以外の生徒や教員とのインタビューを行い、本番では各ペアに教員を配置し、やり取りを支援した。聞き取った内容を作文にまとめる際には、教員の支援を受け、不明な点を相手に再度質問しながら書き進めた。その後、「他己紹介」として発表し、録画を視聴して振り返りをした（表 1）。

表 1　授業実践の内容（2024～2026 年度）

時間	活動内容	主な言語活動
１・２時間目	インタビューシート作成と質問文の音読・発話練習	書く・読む（音読）・話す
３時間目	インタビューの実施・作文の下書き	聞く・話す・書く
４時間目	作文の清書・原稿の音読・発表練習	書く・読む（音読）・話す
５時間目	「他己紹介」の発表と振り返り	話す・聞く・書く

４．結果と考察（成果・課題）

4.1 成果

2025・2026 年度の活動では、母語の異なる相手に日本語で質問し、作文を書く際に不明な点を

再質問するなど、聞き取りと作文を行き来する姿が見られた。支援のもとで、母語の異なる相手と日本語でやり取りする機会を確保できた。また、表２からは、活動を肯定的に受け止めた様子もうかがえた。

4.2 課題

表２では、聞く・書く活動の難しさを示す記述が見られた。質問や聞き取りに必要な表現、作文のモデルを段階的に提示するなど、生徒の日本語力や学習経験に応じた個別支援の充実が課題である。また、肯定的な感想だけでは、発話へのためらいの軽減や、相手についての理解の深まりまでは確認できなかった。これらを捉える記録・評価方法の検討が必要である。

表２　2026 年度の授業実践における生徒の振り返り

生徒の感想	A（原文のまま）	B（原文のまま）	C（原文・母語訳）	D（原文のまま）	E（原文のまま）	F（原文のまま）
翻訳機の使用	あり	あり	なし	あり	なし	なし
インタビューの実施	たのしいくてきょうみふかいです。もっとにほんごをはなしたいです。	おもしろいにほんごでのはなしがおもしろいはなすことがおもしろい	たのしいかたです。きいて、かくのはむずかしい。	読むときは易しいですが、聞き取る時は難しいです。	じょうずにしつもんすることができました。	インタビューは楽しかったです
作文と清書	クラスメートについて読んだり書いたりするのは楽しくで興味深い	その授業は面白かった。カタカナをかくことができました。	難しかったけど、楽しかった。なぜなら、漢字を書こうとしたからです。（母語訳）	きょうはさくぶんをかきました。	単語で作文を書くことはちょっと難しいですが、おもしろいです。先生の指導に感謝します。ありがとうございました。	さくぶんをかくのはおもしろかったです。
発表練習	れんしゅうはおもしろかったけど、むずかしかったです。	授業はおもいしろかったです	発表の準備をしました。（母語訳）	れんしゅうはたのしかったです。むずかしかったです。		れんしゅうはたのしいけど、どきどきしました。
「他己紹介」の発表と振り返り	はっぴょうはちょっとどきどきしましたが、たのしかったです	はっぴょうはきんちょうしたけど、おもしろかった	プレゼンテーションのビデオを撮りました。私はとても緊張しています。（母語訳）	プレゼンテーションはっぴょうしました。きんちょうたのしかったです	発表する時に、ちょっと緊張ですが、日本語をみんなの前に読むことがうれしいとお思います。	はっぴょうはちょっとどきどきしましたが、楽しくておもしろかったです

4.3 実践の意義と今後の展望

国際交流基金（2011）は、インプットに続くアウトプットの過程で、学習者が自らの表現上の課題に気づくことを指摘している。本実践では、聞き取った内容を作文にまとめる際、不明な点を相手に再質問する姿が見られた。聞く・話す・読む・書く活動を関連づけ、相手を紹介するという目的のもとで日本語を使用する機会を設けたことに意義がある。

また、3 年間、生徒の国籍構成に応じてインタビューの相手を工夫した。多様な背景をもつ生徒が互いについて尋ね、聞いた内容を他者に伝える活動は、相互理解のきっかけとなる可能性がある。今後は、個々の日本語力や学習経験に応じた言語的支援を工夫するとともに、相手について新たに知ったことや、相手への見方の変化を捉える振り返りを取り入れ、活動の成果を検証したい。

【引用文献】

庵功雄監修・志村ゆかり編著（2019）『中学生のにほんご 学校生活編　外国につながりのある生徒のための日本語』スリーエーネットワーク.

Innovation Design & Technologies, Inc.（2026）『令和 7 年度 夜間中学における日本語指導に関する実態調査研究報告書』文部科学省.

国際交流基金（2011）『国際交流基金日本語教授法シリーズ 10　中・上級を教える』ひつじ書房.